

原作 今村昌平  
脚本 水谷龍二  
演出 鵜山 仁

作詞 藤田敏雄  
大谷美智浩  
音楽 いずみたく  
吉田さとる  
美術 中嶋正留  
振付 川西清彦

〜今村昌平のオペラ「死神」より〜

# 死神



イラスト…平澤一平

世にも恐ろしい“死神”の、この世での姿は、なんともカワイイ“ギャル”だった?!  
落語の「死神」をもとに、左とん平主演で贈る、笑いと涙のミュージカル!

出演 左とん平  
井上一馬・藤森裕美・北川理恵 / 水野龍司・吉村直 / 茂木沙月・大塚庸介・池田たかひろ  
(Wキャスト) (Wキャスト)  
森 隆二・中村つむぎ・池田 和・吉田 雄・水谷圭見・山脇明日香  
演奏 吉田さとる (Key.)・太田裕子 (Pf.)  
石田 純 (B.)・えがわとぶを (B.) / 山地厚臣 (Drs.)・島野和樹 (Drs.)

左とん平

藤森裕美

井上一馬

北川理恵



ASP イッツフォーリーズ公演

企画・制作…株式会社オールスタッフ/ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ

演劇鑑賞会☆松江市民劇場

## 1月27日(金) 18:30 開演

島根県民会館 大ホール 松江市教育委員会後援

●入会と観劇のお問合せは…松江市民劇場事務局/電話(0852)26-3094

# 落語の「死神」がミュージカルに！1972年に西村晃主演で話題を呼んだ舞台をリニューアル！

金もない、女にもモテない、さえない葬儀屋の主人・早川は、女房に仕事も家庭も夜の営みもダメダメだと攻められてばかり。そんな早川のもとに、美しい女が現れて、自分は“死神”だと名乗るのでした。美人過ぎる死神の名前は“口口”。口口は早川に金儲けの話を持ちかけます。死神が寝込んでいる病人の枕元にいる時はその患者は死ぬけれど、足元にいれば病人は助かる、死神を追い払う呪文を教えるから、金持ちの病人を助けて金儲けしよう、とここまでは落語の「死神」と同じストーリー。違うのは、このあと、病人を助けたあと。その代償として、なんと死神を抱かないとならない！早川は死神にそんな契約をさせられてしまうのでした。病人を助けてお金も儲かり、そのうえタダで美女も抱けるなんて！…そんなにオイシイ話が転がっているワケもなく…。

ミュージカル「天切り松」でタッグを組んだ脚本・水谷龍二、演出・鶴山 仁、主演・左とん平が新たに挑むミュージカルの新境地！

葬儀屋・早川役に左とん平、死神役に北川理恵を迎え、イツフォーリーズの実力派俳優陣が脇を固めます。“死ぬ前にもう一度、ミュージカルで歌って踊りたい！”という、まだまだ長～いロウソクが灯っている左とん平と、創立40年、日本のオリジナルミュージカルにこだわり続けるイツフォーリーズが贈る「死神」にどうぞご期待ください。

🕯️ 原作 今村昌平

🕯️ 脚本 水谷龍二

🕯️ 演出 鶴山 仁



左とん平



井上一馬



藤森裕美



北川理恵



水野龍司  
(Wキャスト)



吉村 直  
(Wキャスト)

作詞 藤田敏雄／大谷美智浩

音楽 いずみたく／吉田さとる

美術 中嶋正留

振付 川西清彦



茂木沙月



大塚庸介



池田たかひろ

演奏  
吉田さとる (Key.)  
太田裕子 (Pf.)  
(石田 純 (B.)  
えがわとぶを (B.)  
山地厚臣 (Dr.)  
島野和樹 (Dr.)

森 隆二・中村つむぎ・池田 和・吉田 雄・水谷圭見・山脇明日香

## ～今村昇平のオペラ「死神」より～

衣裳…前岡直子 照明…森下 泰(ライトシップ) 音響…返町吉保(キャンピット) 歌唱指導…山口正義 稽古ピアノ・音楽監督助手…太田裕子  
かつら…石渡英男 演出助手…本藤起久子 衣裳助手…溝口貴行(東京衣裳) イラスト…平澤一平 宣伝写真撮影…日高 仁  
舞台監督…岩戸堅一(アートシーン)・泉 智幸(アートシーン) プロデューサー…土屋友紀子  
協力…しまだプロダクション/オフィス・エイター/劇団昴/青年劇場/今村プロダクション

### 落語『死神』について

明治中期、三遊亭圓朝がイタリアのオペラ『クリスピーノと死神』など、ヨーロッパの死神説話（『グリム童話』にも同様の「死神の名付け親」がある）を落語に翻案。貧乏な男の前に死神が現れ「金儲けの方法を教えてやろう。医者になって病人のいる家へ行け。その足元に死神がいれば呪文をとねることで姿を消し、病人も回復する。枕元にいたら、寿命だからあきらめろ」と、呪文を教えて去る。

言われたとおりにすると足元に死神がいる病人が続き、名医と評判になって大儲け。妻をつくり、贅沢三昧な上方旅行の末に金を使い果たして江戸へ戻るが、今度はたて続けに死神が枕元。困ったところへ裕福な家から依頼がくるが、また枕元に……。

そこで深夜、死神が居眠りを始めたところで布団をグルッと回転させ、すかさず呪文をとねると、死神は驚いて姿を消した。大金を手にした男だったが、怒った死神に人間の寿命を示すロウソクが並ぶ洞窟へ案内され「お前は病人と自分の寿命を取りかえたのだ」と告げられる。命乞いし、今にも消えそうな自分の火を燃えさしのロウソクへ継ぎ足そうとするが「ああ、消える……」。ここで、演者が高座にばったりと倒れるのがサゲ（落ち）の定型。

演者によってはロウソクに火が移り、安心のあまりため息で消す、伏線を張っておきシャミで消すなどのバリエーションがある。パースディケーキのロウソクに見立て、喜んで吹き消すこともあり、圓朝作『死神』は現在もさまざまな展開を生み出している。

企画・制作…株式会社オールスタッフ/ミュージカルカンパニー イツフォーリーズ 東京都台東区蔵前2-4-5 K-FRONT ビル 8F 電話 03(5823)1055